

2020年4月26日 復活節第三主日・要約

(ルカ 24:13~35)

司教 ミカエル松浦悟郎

今私たちは、復活したイエスがエマオへ向かう弟子に現れた有名な個所の朗読を聞きました。この個所はいろいろ豊かなメッセージが込められていますが、今日はその中から特に私が大切だと思う三つのことをお話したいと思います。

第一はイエスの方から近寄ってくるということです。

この弟子たちはイエスが十字架で亡くなったことで希望を失い、それぞれが自分の故郷に帰っていくところでした。そこへイエスが近づいてきて一緒に歩き始め、彼らの話に加わっていききました。ここはとても重要なところですが、もし、弟子たちが完全にあきらめて、もはやイエスのことに関心がまったくなくなったとしたら、イエスはその会話の中に入れなかったでしょう。弟子たちは、少なくとも自分たちの思いが崩れてしまった悲しみや失望があったにせよ、イエスのことについて話し合っていたのです。もし、人が人生の意義や神なるものなどを探し求めているなら、いつの間にかイエスはそこにいて、導こうと話しかけてくださっているのです。信仰の有無にかかわらず、人は闇の中にいると感じているときは、実は光を求めているのです。自分は何かを求めていると自覚していなくても、闇の恐怖から別のことにまい進したり、感じるむなしさを埋めようと別のものを求めたりしてしまいます。それも求めていると考えれば、すべての人は何かを求めており、イエスはそれに応えようとしているのです。

一方、私たちの側からの意思も大切です。弟子たちは、一緒にお泊り下さいと頼みます。受身的に聞いていた弟子たちが、今度は自分たちの方から一緒にとどまっていますと頼みます。イエスは奇跡を行う時でもいつも「何をしてほしいのか」と尋ねられます。信仰は与えられるものですが、私たちが自らの意思で「信じたいのです」と意思表示することが必要です。闇にいますと感じたら、光をくださいと求めることが大切です。

第二は心が「燃えていた」と気づくことの大切さです。

弟子たちは、イエスの言葉で理解し始めましたが、不思議な思いが起こってきました。それは、後から気づくことになりませんが、イエスの話を聞いていたとき、「私たちの心は燃えていた」ということです。たとえば神について存在を頭で信じていることができても、生きた神と触れる体験は別なものです。弟子たちは、復活したイエスと一緒に歩き話し込むうちに、人間的な触れ合い、交わりを感じていったとき、心の深いところから、自分を動かしていくような思いが静かに沸いてきたのでしょう。ふつう、自分がやりたいこと、好きなことをしている時、生き生きします。しかし、この弟子たちが「心は燃えていたではないか」と感じたのは、そのこととは少し異なるように思います。ある出来事に触れたとき、なぜか自分の感情とは別に、心の深いところから沸き起こってくるような、突き動かすような思いではないかと思えます。頭では「大変だ」とか「できれば避けたい」と思うようなことでも、心の深いところが震えている、すなわち共感していて、自分を動かしていくような力を感じる。振り返れば、誰もがそのような体験を持っているのではないのでしょうか。そのような体験は、弟子たちが、生きているイエスとの人格的な交わりから心

が熱くなった体験につながるものなのです。

第三はイエスとの秘跡的出会いです。

弟子たちは夕食のとき、イエスがパンを裂いて渡されたとき、(この行為は最後の晩さん、そしてミサを表していますが)、はじめてイエスだと気づくのです。生前、いつもイエスがパンを裂いて弟子たちに配る姿を思い出したからでしょう。ちょうど、マグダラのマリアが墓の中でイエスと気づいたのは、イエスが生前、親しく「マリア」と声をかけていた同じ呼びかけだったと同じことでしょう。どちらもすでに毎日見ていた光景なのです。つまりイエスとの出会いは、毎日のあたりまえの生活の中ですであつたのです。すでに一緒にいるイエスであっても、それに気づいたとき、「主よ、」と信仰告白できるのです。「パンを裂く」のを見る、あるいは「マリア」と名前を呼ばれる声を聞く、などの具体的なしるしを通してイエスの現存を感じられるということ。そのことは「秘跡的な出会い」と言えるでしょう。私たちの日常をともに歩んでくださっているイエスは見えませんが確かに現存しています。私たちはミサを受けるたびに、秘跡という見えるしるしを通してそのことを確認するのです。

こうしてイエスと出会った二人の弟子たちは、喜びのうちに急いでエルサレムに戻ります。私たちが復活したイエスと出会っているかどうかは、喜んでこの良き知らせを伝えようとしているかどうかで分かります。この二人の弟子とともに、主の復活を告げ知らせていきましょう。

聖霊奉侍布教修道女会・八事修道院にて